

# 予算及び事業の経営方針

## 令和2年度予算の概要

### 1. 業務の予定量

区 分	水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
給水戸数, 給水事業件数及び排水戸数	12,677 戸	6 事業所	11,906 戸
年 間 総 給 排 水 量	3,094,897 m <sup>3</sup>	9,134,000 m <sup>3</sup>	7,799,938 m <sup>3</sup>
一 日 平 均 給 水 量	8,456 m <sup>3</sup>	25,025 m <sup>3</sup>	—
主要な建設改良事業	防鹿水源地3号ろ過池改良工事 136,500 千円  新町三丁目地内配水管改良工事 38,000 千円	小瀬川ダム予備発電機改良工事負担金 7,800 千円  2期工水 No.4 取水ポンプ吐出弁更新工事 4,400 千円	大竹下水処理場電気機械設備改築更新工事 333,600 千円  岩国大竹道路事業に伴う管渠工事 15,300 千円

### 2. 収益的収入及び支出

(単位：千円)

区 分		水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
収 入	事業収益 (A)	559,099 千円	552,363 千円	1,003,935 千円
	営業収益	462,695 千円	513,283 千円	730,101 千円
	営業外収益	96,402 千円	38,818 千円	273,833 千円
	特別利益	2 千円	262 千円	1 千円
支 出	事業費 (B)	557,781 千円	471,060 千円	996,424 千円
	営業費用	542,266 千円	390,297 千円	945,457 千円
	営業外費用	12,514 千円	78,762 千円	47,965 千円
	特別損失	2,001 千円	1,001 千円	2,002 千円
	予備費	1,000 千円	1,000 千円	1,000 千円
差引額 (A) - (B)		1,318 千円	81,303 千円	7,511 千円

### 3. 資本的收入及び支出

(単位：千円)

区 分		水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
収 入	資本的收入 (A)	139,846 千円	192,701 千円	575,311 千円
	企 業 債	131,000 千円	192,700 千円	248,000 千円
	負 担 金	2,000 千円		99,465 千円
	補 助 金	6,845 千円		227,680 千円
	水洗化貸付金回収金			165 千円
	固定資産売却代金	1 千円	1 千円	1 千円
支 出	資本の支出 (B)	354,183 千円	492,866 千円	722,335 千円
	建設改良費	304,490 千円	8,400 千円	511,293 千円
	企業債償還金	48,693 千円	475,666 千円	208,205 千円
	負 担 金		7,800 千円	
	庁舎建設負担金			1,237 千円
	水洗化貸付金			600 千円
	予 備 費	1,000 千円	1,000 千円	1,000 千円
差引額 (A) - (B)		△214,337 千円	△300,165 千円	△147,024 千円

区 分	水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
補てん額	214,337 千円	300,165 千円	147,024 千円
当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額	27,004 千円	1,473 千円	15,950 千円
過年度分損益勘定留保資金	187,333 千円	150,892 千円	131,074 千円
当年度分損益勘定留保資金		147,800 千円	
減債積立金			
建設改良積立金繰入			

## 令和元年度事業の経営方針

水道事業につきましては、給水人口の減少等による使用水量の減少に伴って、料金収入が減少傾向にあります。一方で、今後老朽化施設の更新、耐震化を図っていく必要があることから厳しい経営状況にあるといえます。

いっそうの経費の節減等による経営の健全化に努め、いつでも安全で良質な水の安定供給の実現に向けて取り組んでまいります。

工業用水道事業につきましては、企業債償還利息や減価償却費が経営を大きく圧迫していることから、企業債償還の平準化を図るなど経営努力を続けていますが、厳しい経営環境にあります。

引き続き、安定した工業用水の供給を行っていくためにも経費節減を図り経営の健全化に努めるとともに、本市の産業の活性化に寄与するよう取り組んでまいります。

公共下水道事業につきましては、昭和35年より整備に着手し、昭和45年に供用が開始され、事業認可区域内における整備はほぼ完了しています。

そのため、施設の老朽化が進み、改築更新費が増大している一方で、下水道使用料が年々減少しているなど、非常に厳しい経営状況におかれています。

今後も、安心して快適な生活を営むための良好な生活環境の維持と公共用水域の水質保全のために、いっそうの経費の節減等による経営の健全化に努めてまいります。